

二〇一二年 冬季企画展

京都を学ぶ

うちしき

打敷の意匠

—町衆のこだわり—

2012年
12月11日(火)

2013年
▼▼2月16日(土)

開館時間＝10:00～17:00（入館は16:30まで）

休館日＝日・月曜日

および12月27日(水)～1月7日(月)、19日(土)

観覧料＝一般・大学生：200円、小中高生：無料

（在学生・同窓生・70歳以上の方・障がい者とその介護者1名は無料）

主催＝大谷大学博物館

後援＝エフエム京都

〒603-8143 京都市北区小山上総町

Tel.075-411-8483 Fax.075-411-8146

http://www.otani.ac.jp/kyo_kikan/museum/

大谷大学博物館

Otani University Museum

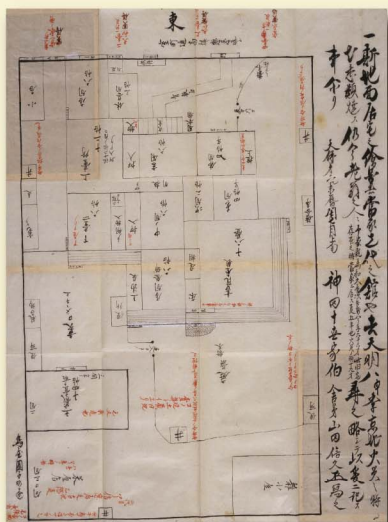
打敷の意匠 —町衆のこだわり—

このたび大谷大学博物館では、冬季企画展として「打敷の意匠—町衆のこだわり—」の開催を企画いたしました。

浄土真宗では、様々な仏具によって堂内を荘厳します。打敷は、こうした堂内荘厳具の一つであり、仏前・尊前の卓上に敷き掛ける錦繡などを用いた布帛です。形状には三角仕立てのものや、方形のものを逆三角形をなすように二つに折って用いるものがあります。文様には、八藤紋や抱牡丹紋をはじめ、阿弥陀仏や浄土の世界を象徴する蓮華、祥瑞をあらわす鳳凰や龍、また唐草文や有職模様などがあり、精緻な刺繍や描絵によって表現されます。

本展覧会では、近世京都の町衆・神田家に伝来した打敷を取り上げ、その意匠の世界を紹介します。神田家は、代々浄土真宗に帰依した篤信の家で、東本願寺と深い結びつきがありました。一方、津国屋と号する両替商を営み、町年寄として町政に参与し、官物掛屋の御用を勤めました。展示は、本山から下付された御内仏や、神田家の法要で用いられた打敷を紹介する「打敷の荘厳」と、神田家に伝来する記録と真宗信仰を紹介した「神田家と真宗信仰」の二つのテーマによって構成しました。

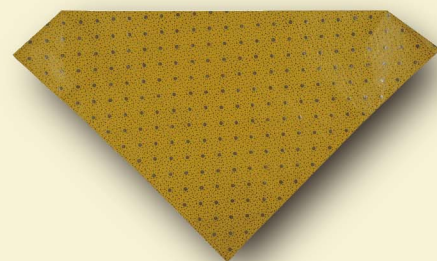
町衆の美意識と真宗信仰が生み出した打敷の意匠を、神田家の由緒や事績とともにご覧いただければ幸いです。



当家先代居宅絵図



白麻地日月法輪雲文様刺繍打敷



黄木綿綾地水玉文様摺箔打敷



紅繻子地雲龍文様錦打敷

京都市内博物館施設連絡協議会
京都市教育委員会

主催

「第18回京都ミュージアムロード」に参加

※2013年1月30日(水)～2月16日(土)のみ